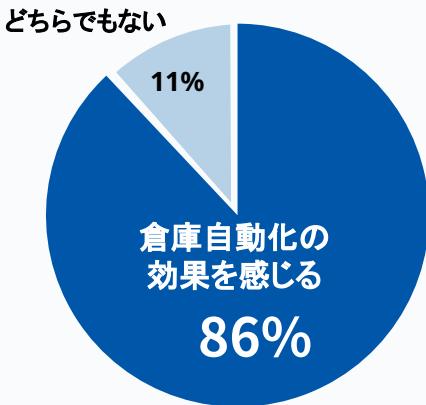


2025年 最新

物流DX・倉庫自動化の 実態調査

株式会社 APT 調査チーム



倉庫自動化を実施している
物流企業の従業員のうち
86% が効果を実感



サマリー

01

86%が「倉庫自動化の効果を実感」

02

工業製品、家電など大きな荷物を扱う企業や3PLで、倉庫自動化は進んでいる

03

中小企業でも、物流DX・倉庫自動化は進んでいる



Chapter 0

はじめに



はじめに

物流業界はいま、大きな転換点を迎えています。

慢性的な人手不足に加え、2024年4月に施行された「働き方改革関連法による時間外労働の上限規制(通称2024年問題)」は、ドライバー不足や配送制限といった新たな現実を突きつけました。

さらに、EC需要の拡大や多品種少量出荷の常態化により、倉庫現場には従来以上のスピード・精度・柔軟性が求められています。

これまでの“人海戦術”では限界が明らかとなり、**倉庫内の自動化や物流全体のデジタル化(物流DX)は、もはや一部企業の取り組みに留まらない「業界全体の生存戦略」となりつつあります。**

一方で、現場には依然として「コストが高い」「効果が見えにくい」といった声も根強くDXや倉庫自動化の導入の判断に迷う企業も少なくありません。

本レポートでは、物流・倉庫業務に関わる幅広い職種・業種の方々を対象に、物流DX・倉庫自動化の「実態」「効果実感」「課題とニーズ」を多角的に調査。「どこまで進んでいるのか」「何が障壁となっているのか」を、定量・定性の両面から明らかにします。

CONTENTS

全体の傾向	9
職種 × DX実施状況	16
扱う荷物 × DX実施状況	23
会社規模 × DX実施状況	26
現場管理者の声	29
まとめ	32
会社・サービス紹介	34

SURVEY

本調査の概要は以下の通りです：
 名称: 物流DX・倉庫自動化の実態調査 2025
 主体: 株式会社 APT 調査チーム
 期間: 2025年5月27日～30日
 対象: 全国の物流・倉庫・製造・小売業従事者(25～59歳)
 方法: インターネット調査 / 有効回答数 500



調査回答者のデータ -1-

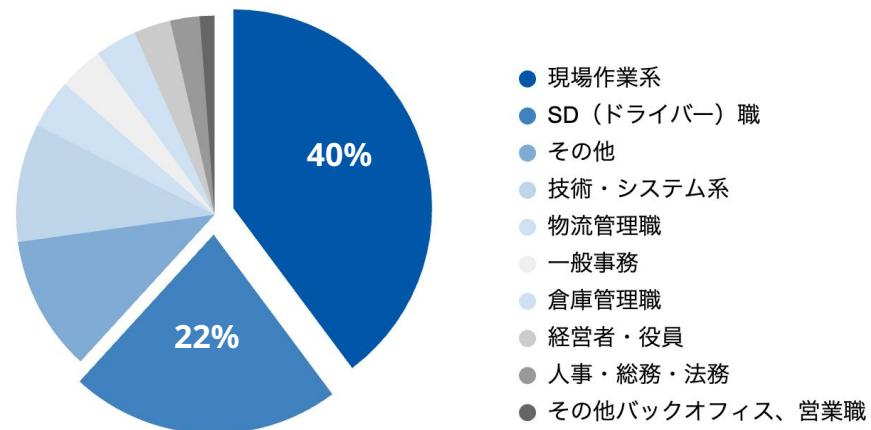
調査概要

調査元: 株式会社APT
調査時期: 2025年5月
調査人数: 500人
調査対象: 25-59歳の男女
物流/倉庫業・製造業・卸業・小売業・
不動産ディベロッパーに従事する人
勤務地が倉庫/工場/外勤

※性年代、業種での割り付けなし

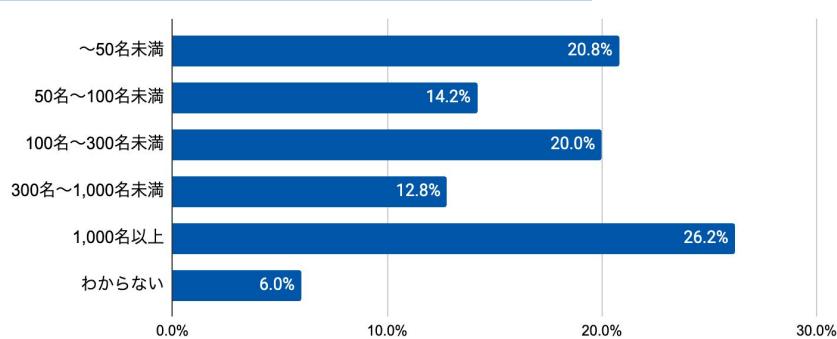
回答者の職種・役職

現場作業員・ドライバー : 62%
倉庫・物流管理者、技術職 : 17%
経営者・役員 : 3%
それ以外 : 18%

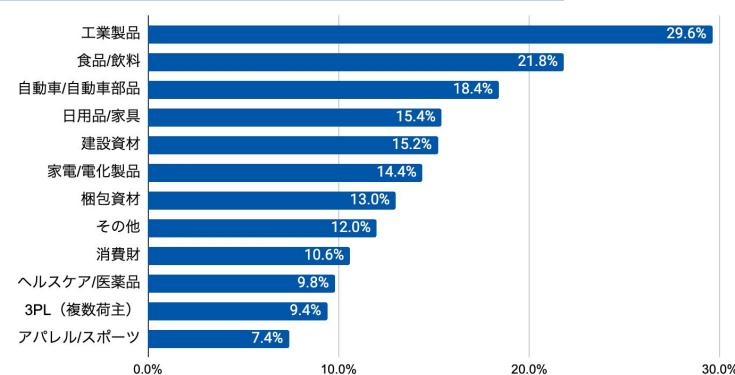


調査回答者のデータ -2-

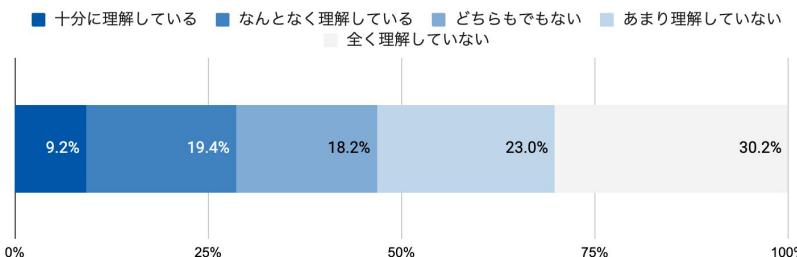
従業員規模 (n=500)



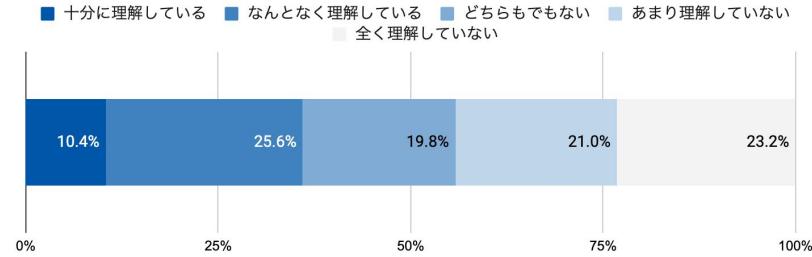
扱う荷物 (複数回答) (n=500)



「物流DX」の理解度 (n=500)



「倉庫自動化」の理解度 (n=500)



Chapter 1

全体の傾向

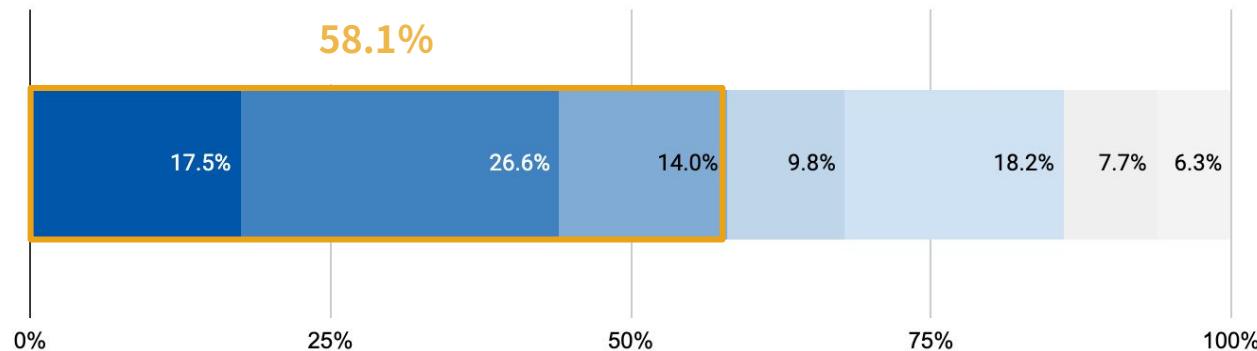


約6割が物流DXを実施済または1年内に取り組む予定

物流DXを実施している割合は44.1%、1年内に実施予定の割合は14%

「物流DX」に取り組んでいる割合

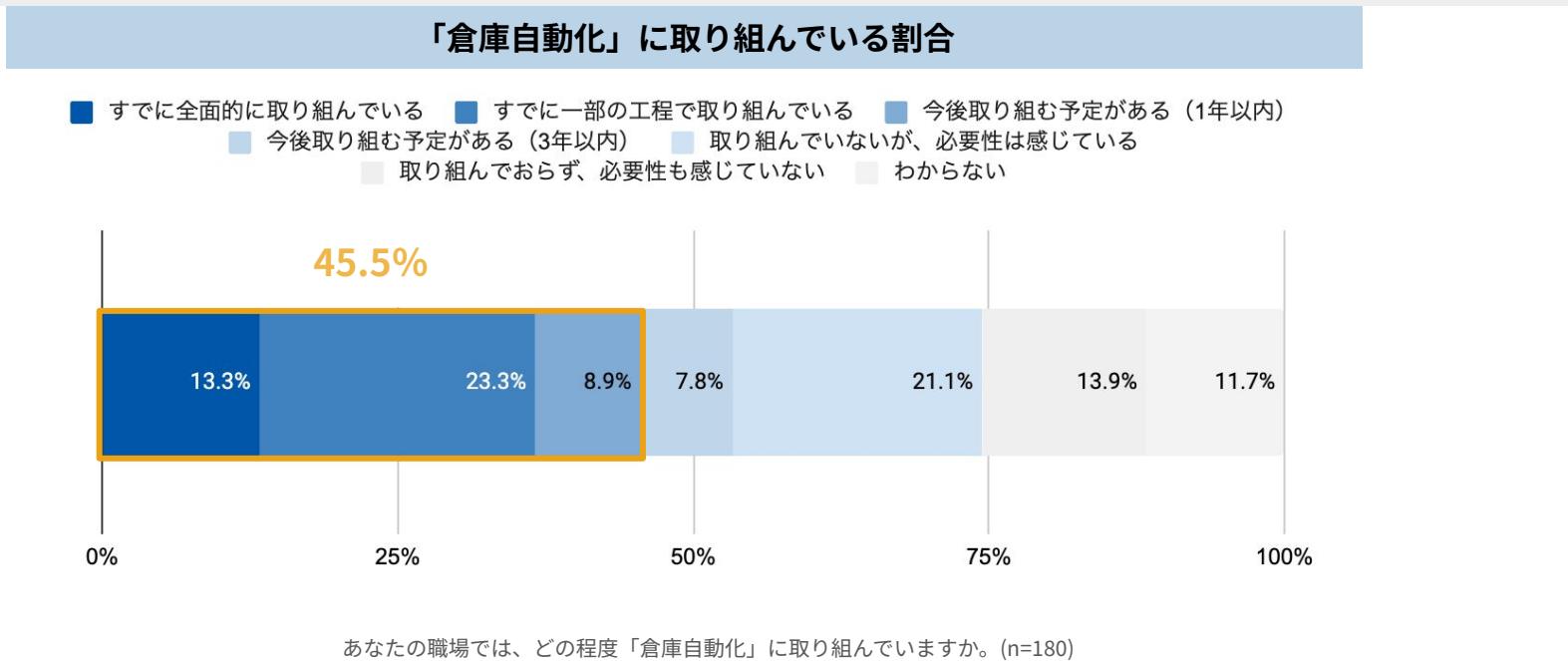
■ すでに全面的に取り組んでいる ■ すでに一部の工程で取り組んでいる ■ 今後取り組む予定がある（1年内）
■ 今後取り組む予定がある（3年内） ■ 取り組んでいないが、必要性を感じている
■ 取り組んでおらず、必要性も感じていない ■ わからない



あなたの職場では、どの程度「物流DX」に取り組んでいますか。(n=143)

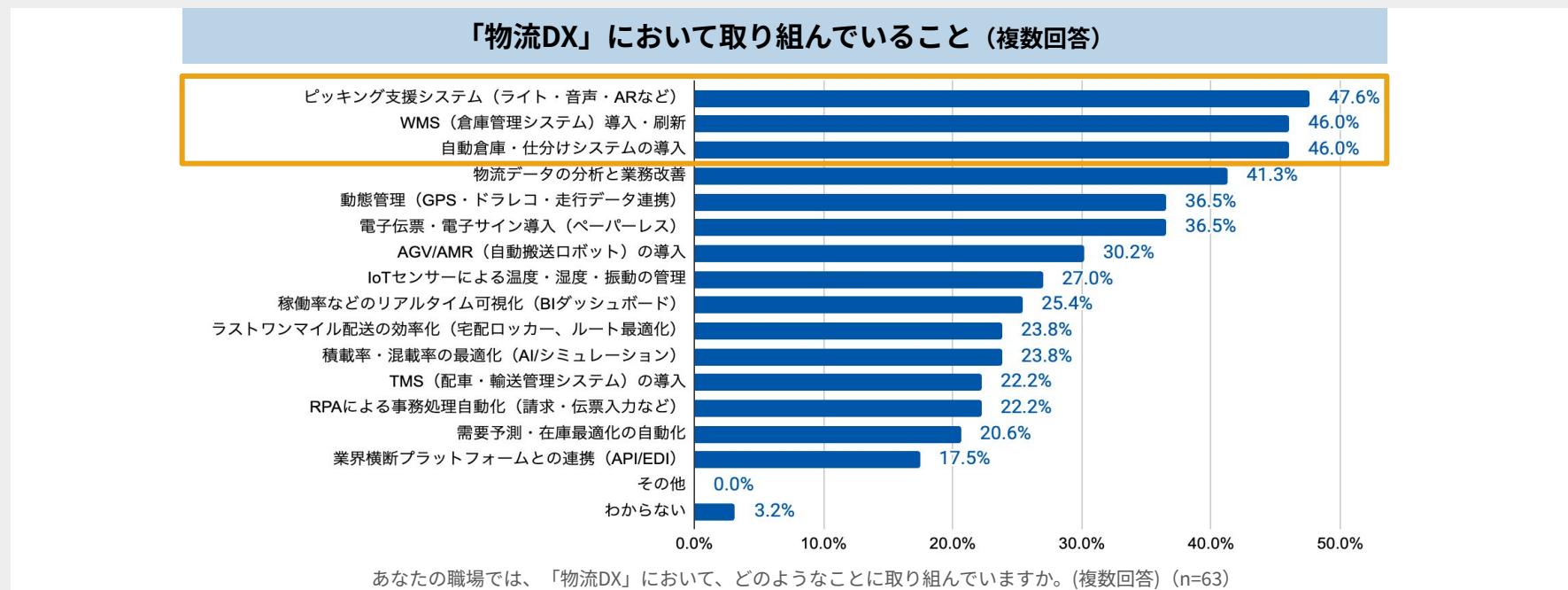
約5割が倉庫自動化を実施済または1年内に取り組む予定

倉庫自動化を実施している割合は36.6%、1年内に実施予定の割合は8.9%



物流DXの取り組み内容TOP3は、ピッキング、倉庫管理システム、自動倉庫

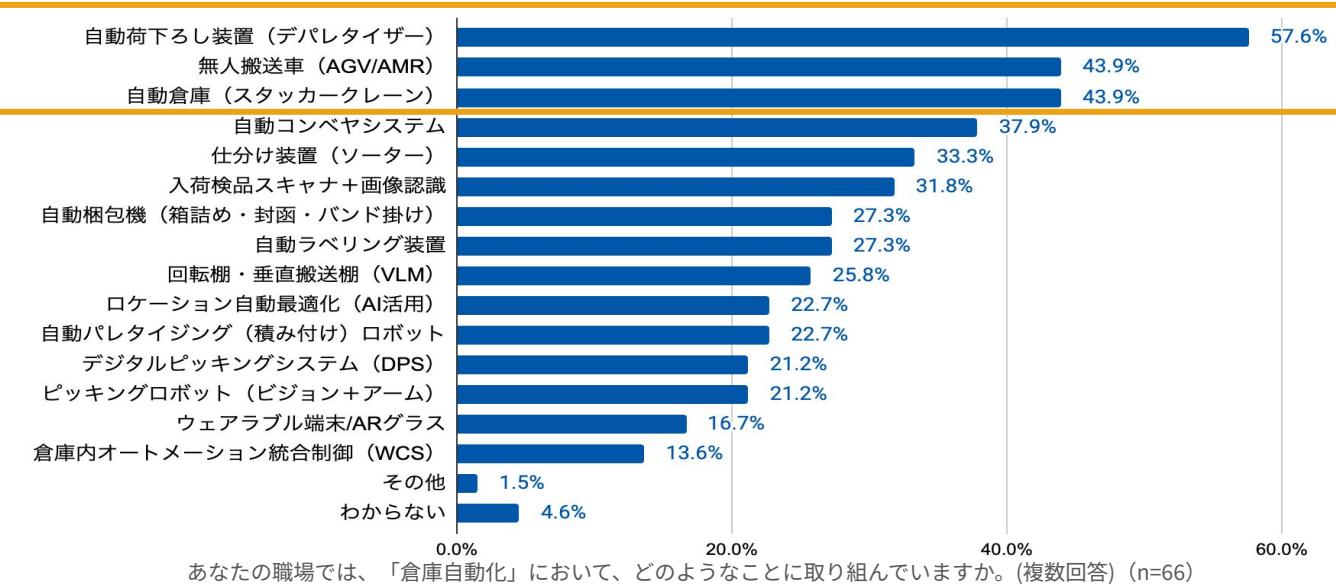
ピッキングシステム（ライト・音声・ARなど）、WMS（倉庫管理システム）導入・刷新、自動倉庫・仕分けシステムの導入がもっとも進んでいる。



倉庫自動化の取り組みTOP3は、自動荷下ろし、無人搬送車、自動倉庫

自動荷下ろし装置（デパレタイザー）、無人搬送車（AGV/AMR）、自動倉庫（スタッカークレーン）の導入がもっとも進んでいる。

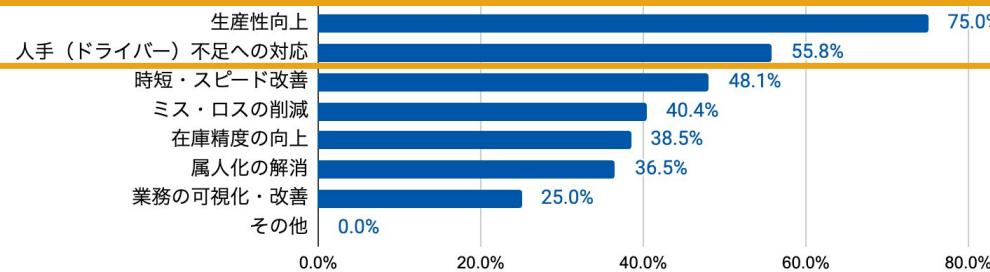
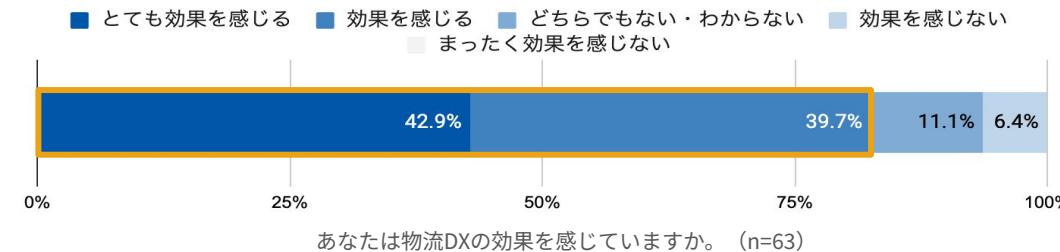
「倉庫自動化」において取り組んでいること（複数回答）



83%が「物流DXの効果を実感」、得られた効果は「生産性向上」が75%で最多

物流DXの「効果を感じない」は6.4%のみで、「まったく効果を感じない」と回答したのは0%

「物流DX」の効果実感 / 得られた効果 (複数回答)

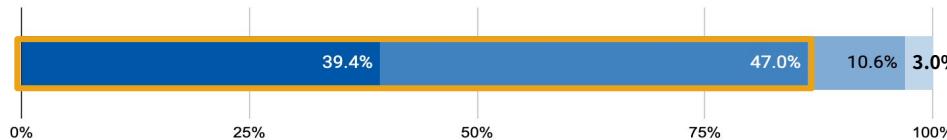


86%が「倉庫自動化の効果を実感」、得られた効果は「生産性向上」「人手不足への対応」

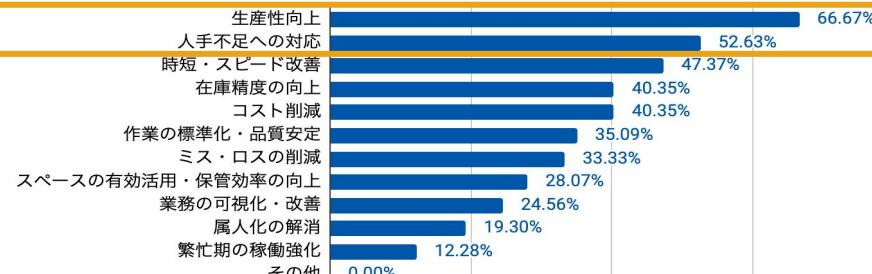
倉庫自動化の「効果を感じない」は3%のみで、「まったく効果を感じない」と回答したのは3%

「倉庫自動化」の効果実感 / 得られた効果 (複数回答)

■ とても効果を感じる ■ 効果を感じる ■ どちらでもない・わからない ■ 効果を感じない
■ まったく効果を感じない



あなたは倉庫自動化の効果を感じていますか。 (n=66)



倉庫自動化に取り組んだ結果、どのような効果が得られましたか。(複数回答) (n=57)

Chapter 2

職種×DX実施状況

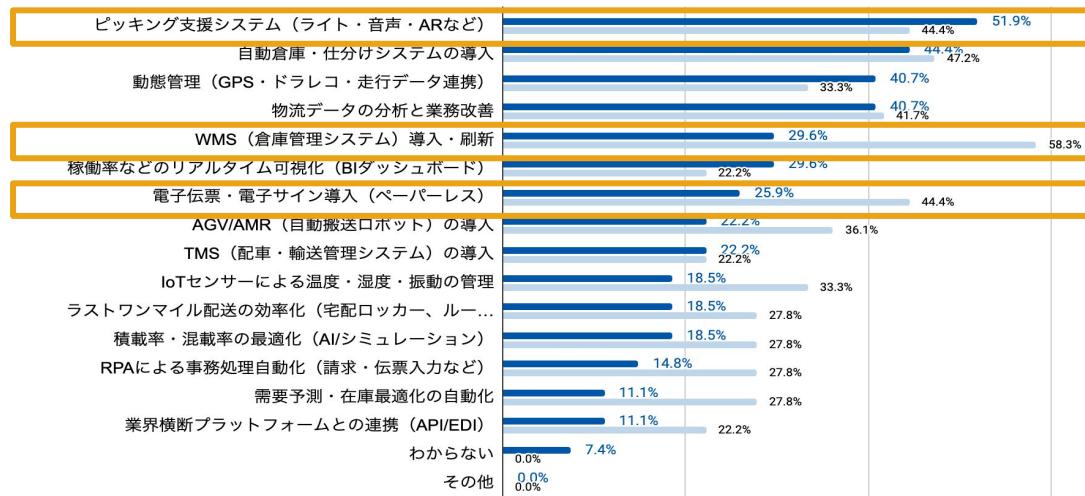


DXの取り組み、現場作業ではピッキングシステム、それ以外ではWMS導入が進んでいる

現場とそれ以外での乖離が大きかったのは、「WMS（倉庫管理システム）の導入・刷新」「電子伝票・電子サイン」

「物流DX」において取り組んでいること（複数回答）

■ 現場作業系・ドライバー ■ それ以外（現場管理者／経営者・役員／技術職）

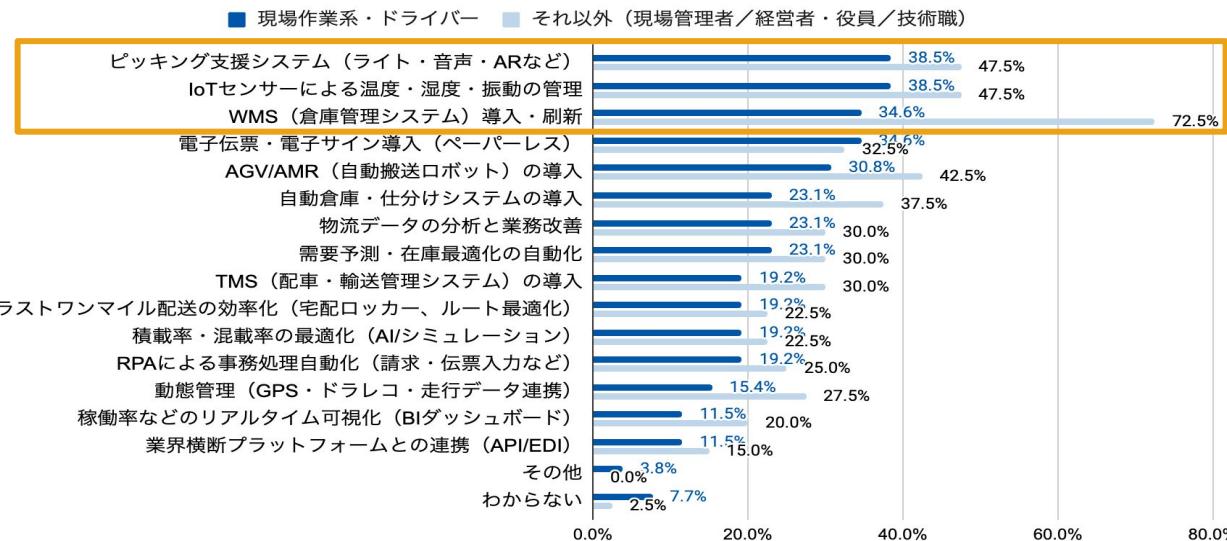


物流に取り組んだ結果、どのような効果が得られましたか。（複数回答）（n=62）

DXの取り組み、現場ではピッキングシステム、IoTセンサー、それ以外ではWMS導入が進んでいる

現場とそれ以外での乖離が大きかったのは、「WMS（倉庫管理システム）の導入・刷新」

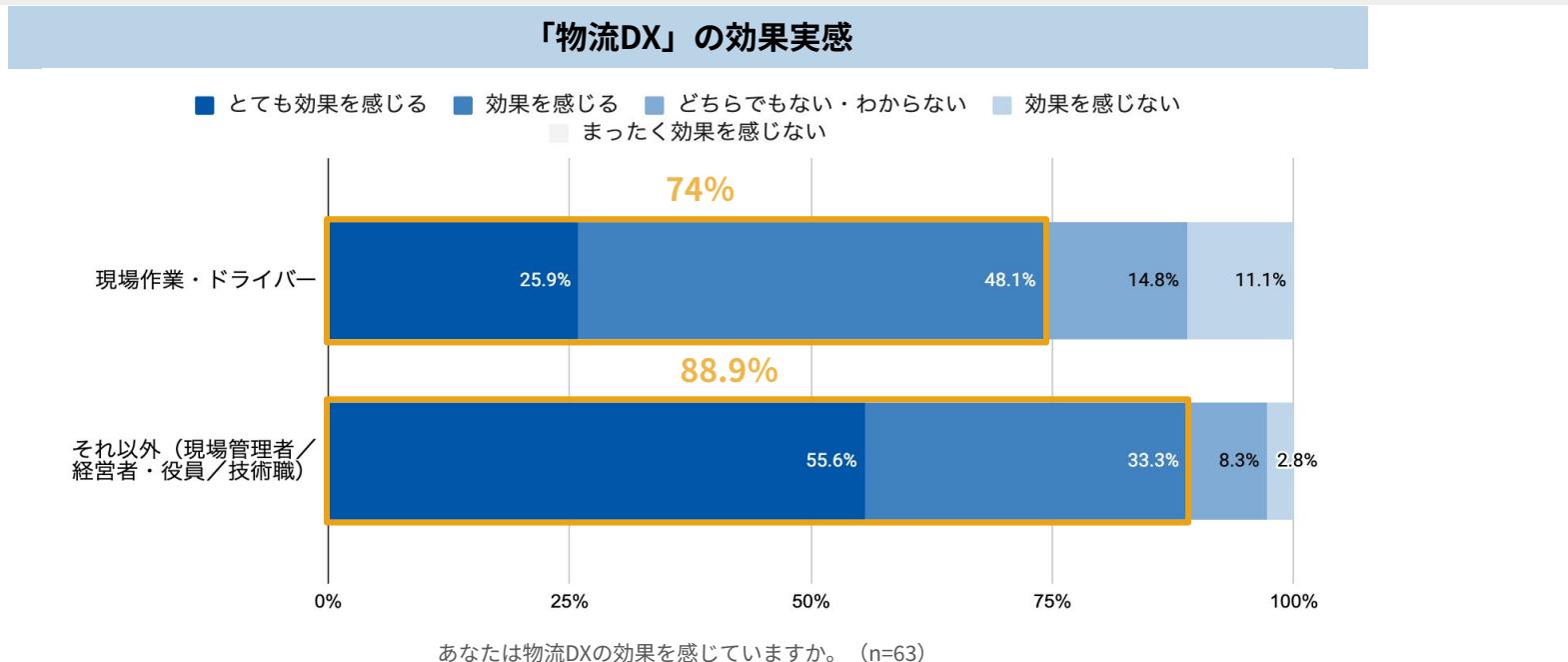
「倉庫自動化」において取り組んでいること（複数回答）



倉庫自動化に取り組んだ結果、どのような効果が得られましたか。（複数回答）（n=57）

「DXの効果実感」は、現場より管理職・技術職などの方が15%高い

レイヤーが上の人ほど効果実感は高いが、「まったく効果を感じない」回答者はいずれも0%

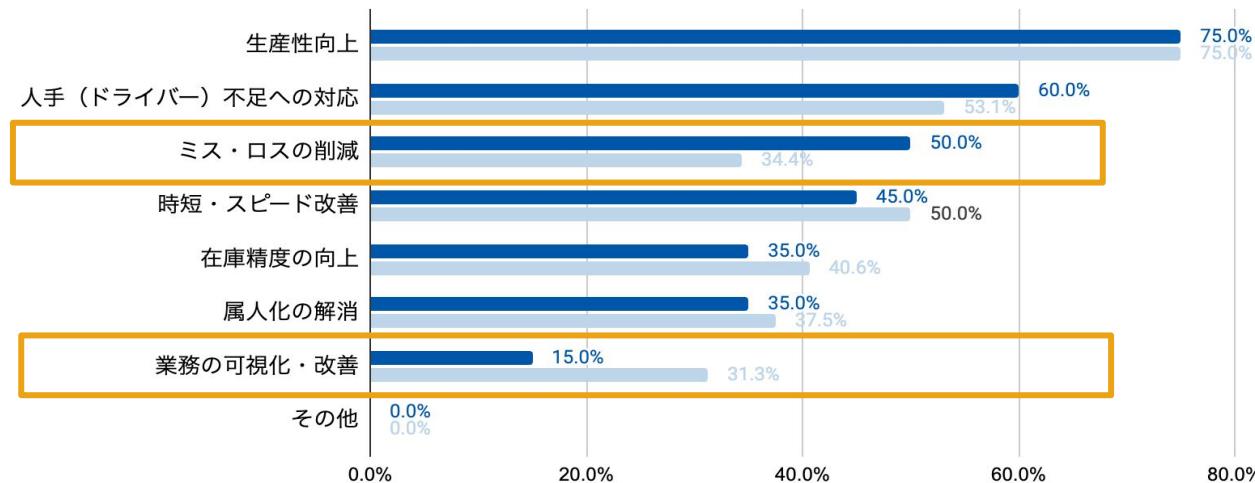


現場は「ミス・ロスの削減」、管理職などは「業務の可視化・改善」でDXの効果を実感

職種問わず「生産性向上」の効果実感がダントツ1位

物流DXで得られた効果（複数回答）

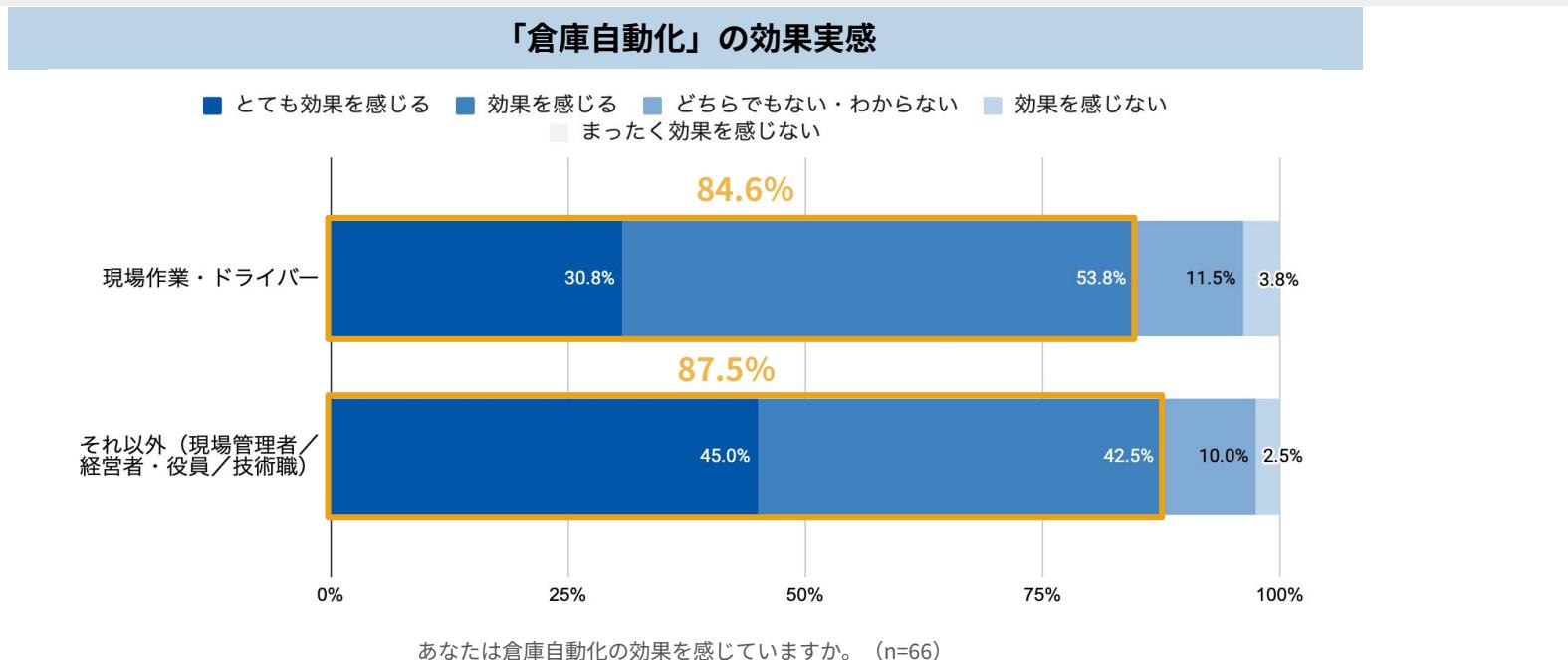
■ 現場作業系・ドライバー ■ それ以外（現場管理者／経営者・役員／技術職）



物流DXに取り組んだ結果、どのような効果が得られましたか。(複数回答) (n=52)

「倉庫自動化の効果実感」は、職種問わず8割以上

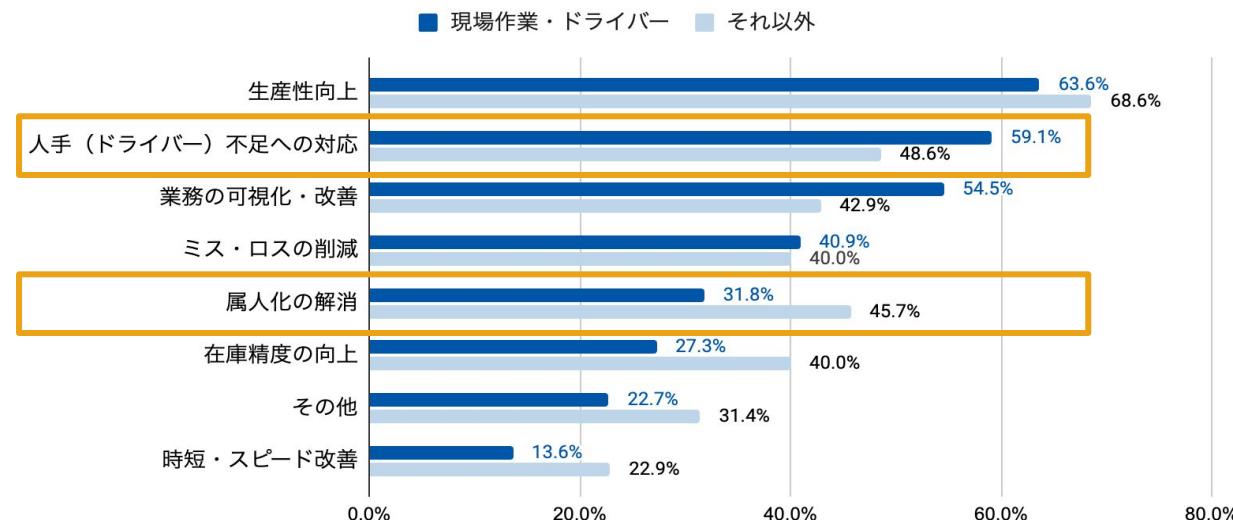
職種による効果実感に差はほとんどみられず、「まったく効果を感じない」回答者はいずれも0%



現場は「人手不足」、管理職などは「属人化の解消」「在庫精度の向上」で倉庫自動化の効果を実感

職種問わず「生産性向上」の効果実感がダントツ1位

倉庫自動化で得られた効果（複数回答）



倉庫自動化に取り組んだ結果、どのような効果が得られましたか。（複数回答）（n=57）

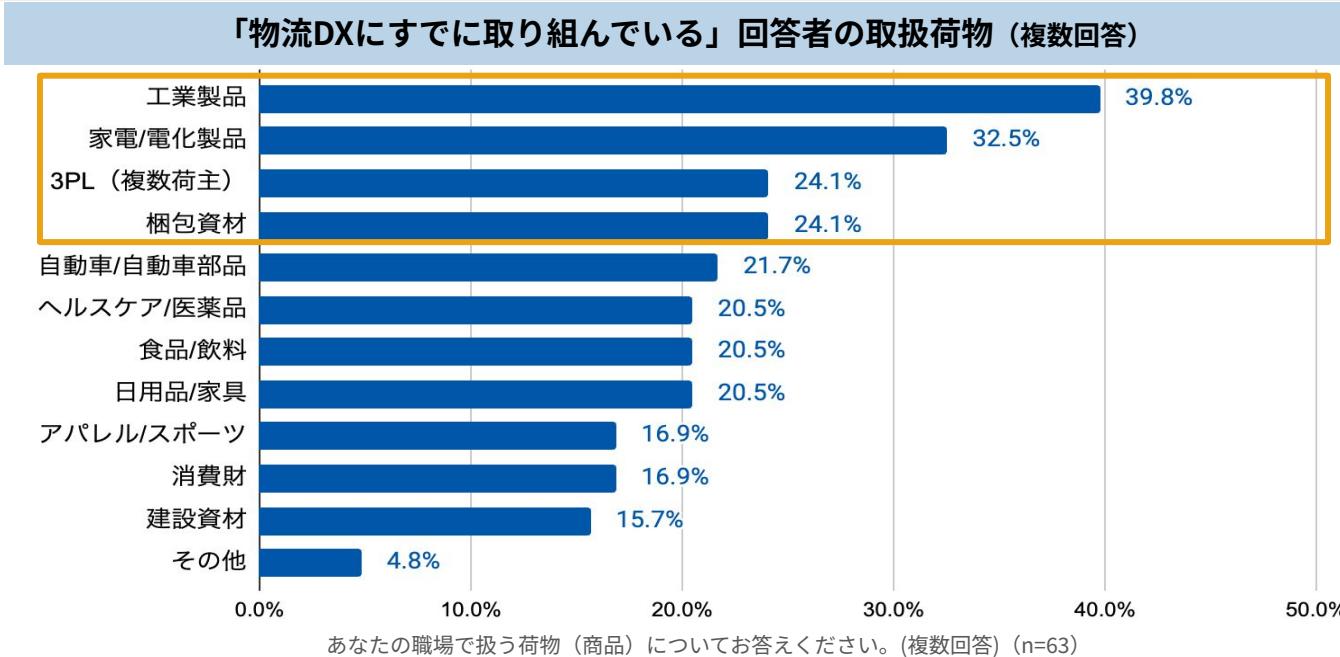
Chapter 3

扱う荷物×DX実施状況



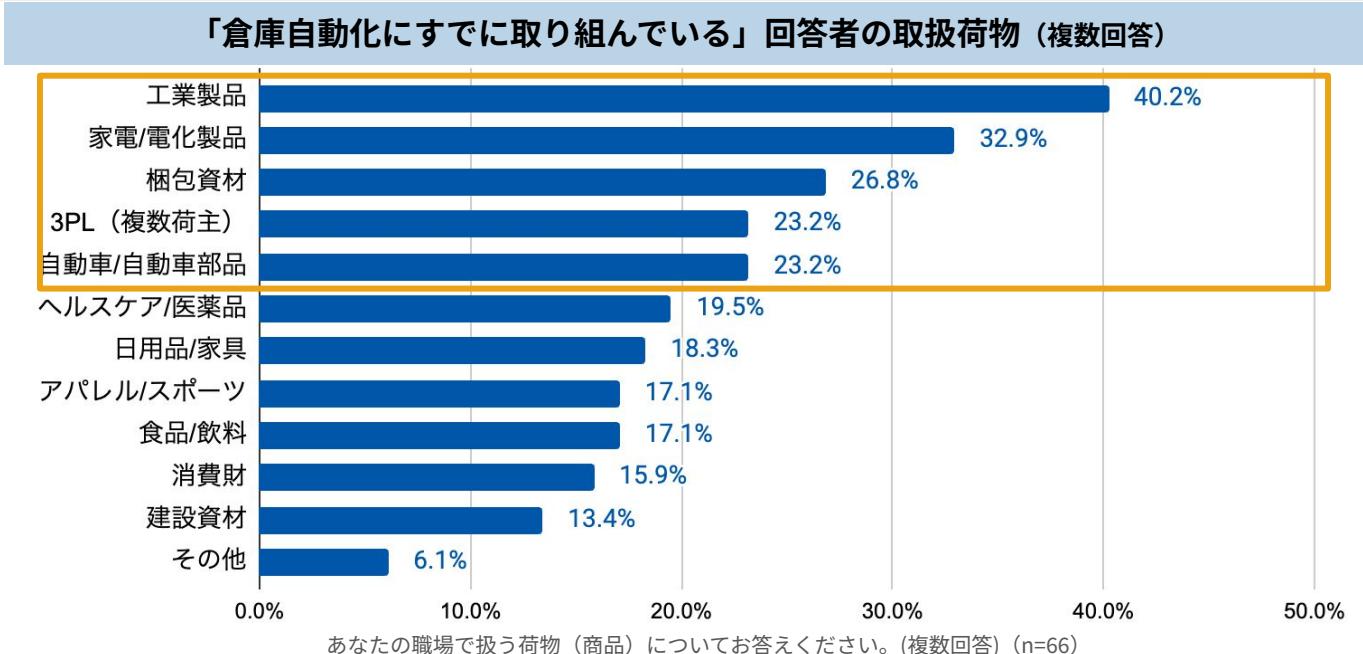
工業製品、家電などの大きな荷物を扱う企業や、3PLで、物流DXが進んでいる傾向

倉庫自動化がもっとも進んでいる「工業製品」ともっとも進んでいない「建設資材」の差は、24.1%



工業製品、家電など大きな荷物を扱う企業 / 3PLで、倉庫自動化は進んでいる

倉庫自動化がもっとも進んでいる「工業製品」ともっとも進んでいない「建設資材」の差は、26.8%



Chapter 4

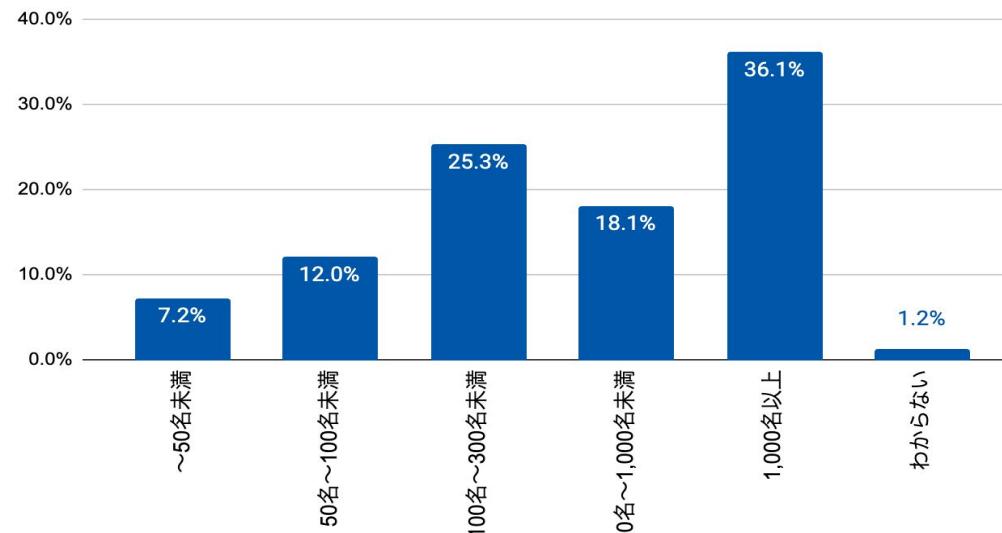
会社規模×DX実施状況



実倉庫自動化の実施は大企業が圧倒的、しかし100-300名規模の企業も25%が実施

ある程度は会社規模に比例するが、100-300名規模の現場の1/4でDXが浸透している

「物流DXにすでに取り組んでいる」回答者の企業規模

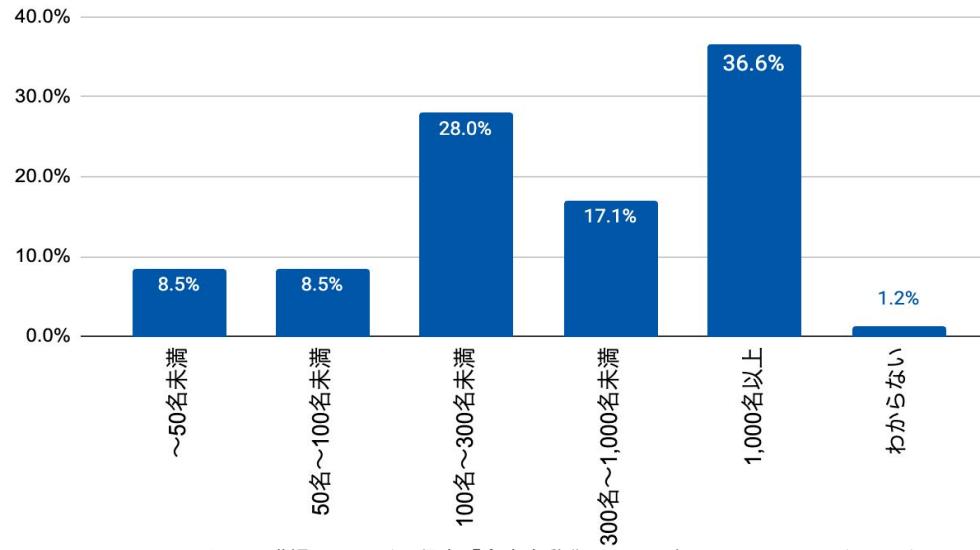


あなたの職場では、どの程度「物流 DX」に取り組んでいますか。(n=143)

倉庫自動化の実施は大企業が圧倒的、しかし100-300名規模の企業も28%が実施

ある程度は会社規模に比例するが、100-300名規模の現場の1/4で倉庫自動化が浸透している

「倉庫自動化にすでに取り組んでいる」回答者の企業規模



あなたの職場では、どの程度「倉庫自動化」に取り組んでいますか。(n=180)

RESULT



Chapter 5

現場管理者の声



DX・倉庫自動化の実施後の困りごとは、「費用面」「機器・システムとの連携」

導入コストや費用対効果など費用面がネックとなっている他、自社の現場に合っているのか疑問視する声も

物流DX / 倉庫自動化を実施した後も困っていること

コストの高さ

費用対効果(ROI)が
見えにくい

導入機器・システムの連携
がうまくいっていない

自社業務に
フィットしていない



あなたの会社が、物流DX/倉庫自動化において、これらを実施した後も困っていることはありますか。(複数回答)

DX・倉庫自動化を検討しない理由は、「費用面」 「最適なメーカー・システムが不明」

導入コストや費用対効果など費用面がネックとなっている他、会社の風土や現場の受け入れ体制も課題

DX・倉庫自動化を検討しない理由

初期投資
コストの高さ

現場のアナログ
文化が根強い

オペレーションが複雑・属
人化している

自社に合うメーカー・
システムがわからない



あなたの会社が、物流 DX/倉庫自動化を検討していない理由は何ですか。（複数回答）

Chapter 6

まとめ



調査のまとめ

物流DX・倉庫自動化の実施状況は、扱う荷物や企業規模などではらつきがある。

また導入に対するコストやシステム連携などの壁も顕在化。ただ、すでに実施している現場の多くではその効果を実感している。

Key Findings

- 💡 導入企業の多くが「効果を実感」している一方、コストやシステム適合の不安が導入の壁に
- 💡 DXや倉庫自動化は大企業を中心に浸透しているが、中小企業(100-300人規模)にも広がりつつある
- 💡 DX/倉庫自動化の効果として、管理職・技術職は「業務の可視化・改善」「業務改善」、現場作業者・ドライバーは「人手不足解消」や「ミス削減」に高評価



About us

会社・サービス紹介



APTは「メーカーフリー物流サポーター」です。

メーカーを横断したご提案で、各社に合うシステム・機器を採用。その結果コストカットの実現も。

よくあるお悩み



メーカー依存で情報が閉じられている



メンテナンスのたびに高いコストが発生



相談先はメーカーのみで
相見積もりが取れない

APTの強み



異なるメーカーの機器・システムを連携



メーカーより価格を抑えられる傾向

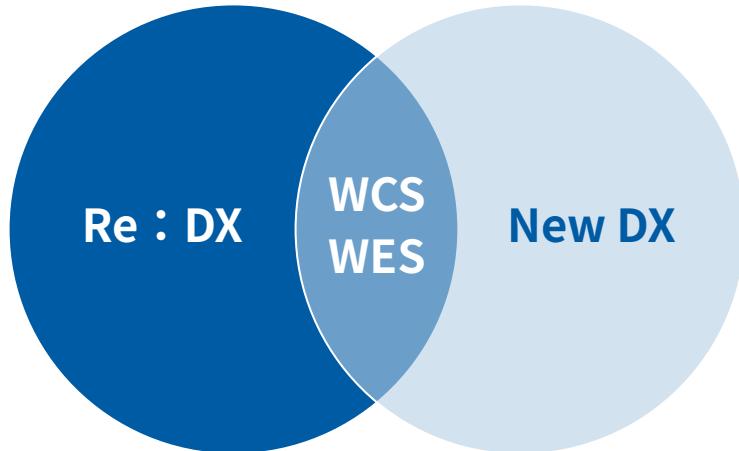
※すべてのケースではありません



自社にあったオペレーションをご提案

ロボットとソフトウェア (WCS/WES) を活用し、倉庫業務を改善。

- ① Re : DX ... 古くなった自動化設備を再活用した業務効率化や延命（リニューアル）
- ② New DX ... 最新のRoboticsやソフトウェア、AIを活用した倉庫業務の効率化。



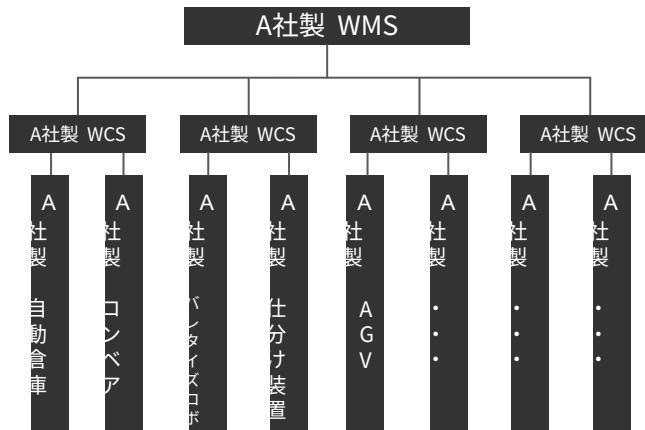
WCS : 物流センターの全体管理システム

WES : 物流センター内の自動化機器を最適に動かすシステム

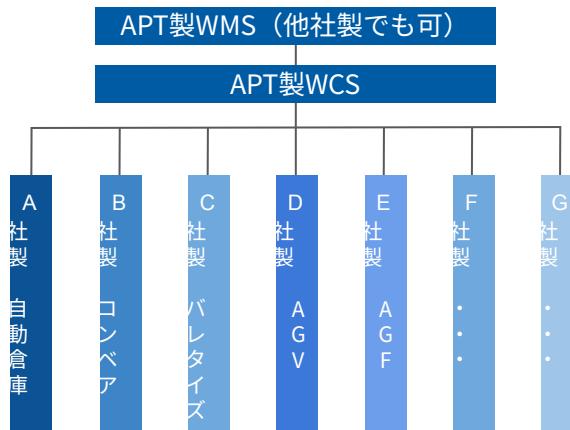
APTが推進するユーザー協調型の物流システム（ベンダーフリー）

- ベンダー主導型が主流となっている物流機器業界において、
ユーザーと協調し、ベンダーフリーな機器選定を実現。新たな手法で第三極を目指す。
- Re: DXで培った“WCS”が強み。

ベンダー主導型



ユーザー協調型



連携実績

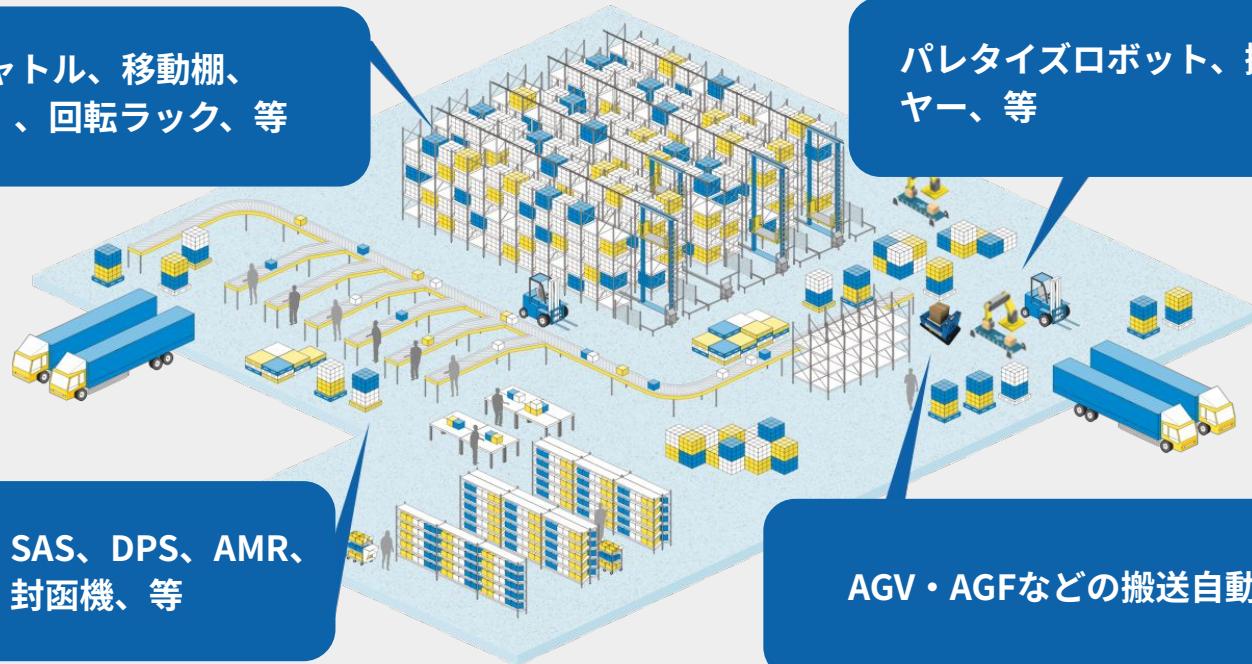
倉庫内や物流現場でニーズのある、各分野を網羅的にカバー。
国内外、40以上のメーカーとの接続実績（TUNAGERU実績）を有します。

自動倉庫、シャトル、移動棚、
オートストア、、回転ラック、等

パレタイズロボット、搬送コンベ
ヤー、等

仕分けソーター、SAS、DPS、AMR、
オートラベラー、封函機、等

AGV・AGFなどの搬送自動化機器



会社概要

会社名 株式会社 APT

代表 井上 良太

設立 2009年8月(創業:1984年10月)

資本金 2億6550万

本社所在地 〒261-0023
千葉県千葉市美浜区中瀬1-3 幕張テクノガーデンB棟 22F
TEL:043-350-0581
FAX:043-350-0881

Koco Labo 〒275-0024
千葉県習志野市茜浜3-7-2 Landport習志野 W19
TEL:047-406-5808

関西サテライト
オフィス 〒651-0087
兵庫県神戸市中央区御幸通8丁目1-6 22F
TEL:078-570-5670



倉庫内DX・自動化でお困りの方 お気軽にお問い合わせください。

会社HP



お問い合わせ



資料ダウンロード

